

SCHWÄWISCH GMÜNDE

第40回

ヨーロッパ・キリスト者の集い 証と感想



『ひとりひとりのなまえをよんで』

やまのうちさちこ
南ロンドン日本語キリスト教会

しかし、イエスは言われた。「子どもたちを来させなさい。わたしのところに来るのを邪魔してはいけません。天の御国はこのような者たちのものなのです。」マタイ19:14

今年の集いも幼小科担当として、小さなお友だちにお仕えする特権にあずかせていただけたことを心から感謝する。

イエス様がひとりひとりなまえをよんで招いてくださった子どもたち、そして身を低くして御奉仕に参加してくださった同労者の方々と共に、『緑の牧場、いこいのみぎわ（詩篇23）』で共に祈り、賛美し、楽しく過ごさせていただいた4日間。

奉仕者をはじめ、参加者の全員がほぼ初対面の2歳から11歳までの男の子、女の子とどのように楽しく過ごすことができるか、準備している時から主は共にいてくださった。そしてリードしてくださった。

集いのテーマは大宣教命令。
これを小さなお友だちとどう分かち合うか…導かれたテーマは「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそキリスト・イエスにおいて神が

あなたがたに望んでおられることです。」1テサロニケ5:16-18 新共同訳』

『喜ぶ』『祈る』『感謝する』そして『伝える』をイエス様がどのようなお方なのかということを中心にメッセージが語られた。朝も夕も、おやつの時もみんなで声を合わせて感謝してお祈りした。ダンスしながら賛美した。みことばを文字で書いたり、絵で表したり、いろんな方法で伝えることを遊びながら学んだ。



手話、ジェスチャーゲーム、糸電話、などなど。折り紙でハートのポケットを作ってみことばをプレゼントするミッションもやり遂げた。

一人ひとりがキラキラ輝いていた。それをイエス様が喜んでおられると思ったら泣けてきた。背後で捧げられてきた尊い祈りがあった。なんて幸せなんだろう。

この集いで共に過ごした子どもたちのこと、奉仕者の方々のこと、思いめぐらしながら今日も感謝して祈っている。幸せは続く…

幼小科プログラムでの活動の様子を奉仕者が撮った写真をアルバムにしました。ご希望の方は個人的にお知らせください。

jesuissachi3@gmail.com



想像をはるかに越えて

タンゲナ由香里
オランダ南部キリスト教会

図々しくも今回の集いの実行委員をさせていただきました。でも上から降ってきた思いだったのです。殆ど40年前から参加し恵まれてきた者として、何かさせてもらえたらと手を挙げました。作田兄弟（第一回目からご夫妻で参加されていた）が日本に本帰国された今、初めの頃を知ってる者として貢献したいと思いました。



そして、私たちが敬愛してやまない安部哲兄を通して与えられた、彼の燃えるような宣教の熱い熱い思いを、参加者の皆さんと共有したいと願い祈るようになりました。委員会で、第2講演会を任せられ、手探りで企画を始めて行くと、あれよ

あれよと言う間に全てが整えられて行きました。作田さんにもいらしていただけたらと、お嬢さんを通して伺ったのが実現せず残念でしたが、神様は不思議な方法で蜷川姉と再び繋がらせてくださいました。

まだPCなど普及しておらず、ネットワークという概念も希薄だった頃、安部さんは、ヨーロッパのあちこちの国々にクリスチャンを訪ねては、「わしの話の聴き賃」と言って重いスーツケースに詰め込んだヘヴィトラクトを配って回っていました。

そのクリスチャンが、どこの派とか、どう言う教会の方とか全くお構い無しに、「何月何日にそこに行くから近くの日本人を集めなさい。」と言う感じで、前日になると近くの駅に例の重たいスーツケースを脇において、タバコを吸いながら迎えを待っていらっしゃいました。



彼はまさに「キリストに捉えられた男」だった。

そんなことがしばらく続いたので、いつの間にか安部さんを通じてヨーロッパのどこにクリスチャンの集まりがあるのかが薄々わかるようになっていったのでした。このネットワークこそが超教派の集いの軸となっていたのでした。

彼の福音を伝えたいと言う燃えるような強い思いは、正にイエス・キリスト以外は何の価値もない「つまらんもの」でしか無く、信徒伝道者として、オランダでマリリアで召されるまで、消える事はありませんでした。



神様に特別に選ばれた器を通して、このヨーロッパの日本人に与えられた恵みは、いま思い返しても感謝されるものではありません。安部さんの伝道を日本で陰から支えてくださった霊満クルセードが、安部さん亡き後、野口姉に本の執筆を依頼されたので、彼の全体像をご存知の野口姉がこの集いにいらして下さったのも、全て主のお取り計らいだったと思います。

そして、この企画運営のご奉仕をさせていただいて、一番祝福をいただいたのは、他でもなく私自身でした。安部さんに燃やされた聖霊の働きで始まり、10年以上も続いていた福音の出前集会は今はお休み中ですが、たとえ救われる者がすぐに与えられなくても、矢張り福音を伝える事に後戻りは許されないと改めて示されました。

種が蒔かれなければ、芽生えさせて下さる神様がどうしてそのお力を発揮できるのでしょうか。私に与えられたチャレンジは想像を超えたものになってしまいました。主よ、あなたが道をお示しくくださいますから、しもべがその道に従えるよう、潔め強め整えて仕えさせてください。全ての御栄光が主にありますよう。

第2回 ドイツ ユングシュタイン 1985年



第2回 ヨーロッパ・キリスト者の集い

次世代への信仰 継承を願って

野口和子

小岩栄光キリスト教会

ヨーロッパ・キリスト者の集い40回をお祝い申し上げるとともに、拙い私が証しの機会をいただけたことを感謝いたします。また、幼児から大人まで網羅するこの集会のために、実行委員の皆様や、多岐にわたるご奉仕を担ってくださった方々にお礼申し上げます。

私は2012年の第19回(オランダ)の集いに初めて参加しました。拙著『この愛に捉えられて——信徒伝道者・安部哲と霊満クルセード』に取材協力して下さったパリ、ノルウェー、オランダの兄姉たちにお礼を申し上げ、拙著を会場の皆様にお分かちするためでした。



当時オランダの姉妹たちは、日本から新たに赴任した方たちを訪問しては”出前集会”をなさっていました。それに感動した私は、まねをして証しの”出前配達”を始めました。アメリカ18か所、カナダ3か所の日本語教

会、家庭集会、信徒団体、同様に日本の52か所で、今回お話しした証しを語り、拙著をお配りしました。一区切りついたかなと思っていたところ、今回の集いにお招きいただいた次第で、証し伝道の出発点に戻ったわけでした。

今回、タンゲナ由香里姉による目配りの行き届いた司会と、安部兄から直接信仰の導きをいただいた蜷川いづみ姉、金子進兄、森功・よし兄姉による証しを感謝いたします。

実は、私は生前の安部兄にお会いしたことはなく(夢の中で2度お会いしましたが)、多くの方々の証言のおかげで伝記を書くことができたのでした。拙著は品切れ、絶版となりましたが、電子書籍として無料公開いたしました。下記を開くと読むことができます。

この愛に捉えられて

信徒伝道者・安部哲と霊満クルセード

野口和子



イーグルス

ギガファイル ダウンロードリンク <https://xgf.nu/wzvtf>

2024年1月8日まで有効です。

今回の分科会は「黙想と祈り」に参加しました。この得難い機会にシスター・ソハラの靈性に触れ、もっと祈れる者になりたかったからです。

ウクライナ戦争、洪水、山火事、地震……。このように世が暗ければ暗いほど、時代の空気に押しつぶされないように、天上のイエス様を疑わず、まずは日々静まって祈り、イエス様の愛あるみ顔に心を向けてその愛

に浸り、そこから愛の力を何度でもいただく。その愛の炎を消し去らないよう

に、注意深く祈りの訓練、練習を怠らないこと。そそっかしい私が、いきなり飛び出して転ばないように、シスター・ソハラの短くも深いメッセージを通して、神様は私を戒めてくださいました。



最晩年の安部哲兄(アフリカ)

4日間、諸先生方から必要な**靈の糧**をいただくとともに、さまざまな背景を持った初対面の兄姉が、恵みとともに重荷も担いあうことができたと思います。会場を囲む自然の中では、そんなふうにながら心が開かれるような気がします。

次世代への信仰継承を願って、これからも集いが用いられますように期待しつつ、東京の片隅からお祈りいたします。



分科会 シスター・ソハラと

希望の光を見た集い

森よし

スタヴァンゲル日本語聖書集会

私たちの主の御名を心から賛美します。ハレルヤ！
私達夫婦は今年6年ぶりにキリスト者の集いに参加させていただきました。

今年は40周年記念大会という事で、キリスト者の集いが始まった頃の信徒達の熱量を思い返そうというような趣旨だと伺いました。

参加して、久しぶりに懐かしい愛
兄弟にお会い出来たことはとても嬉しく、慰め励まされるものでした。更に感じたのは、若いキリスト者ホームの方々が沢山参加されている事、ユースの方々の多さに希望の光を見た気がした事でした。



中でも、大会実行委員の清水先生が、この集いは信徒のものなのだとは何度も口にされた事が忘れられません。少ないクリスチャンの集まりから始めて教会が建て上げられて、宣教が広がっていく様子を30年以上の在欧で見てきて思う事は、牧師先生を励まして、一緒に荷を負う信徒達が沢山増える事が、宣教の鍵なんだろうと、しみじみと再考させられました。

私自身の信仰をも省みる良き時間を過ごさせて頂いた素晴らしい集会でした。ここ数年色々な状況で参加出来ないという事も事実でしたが、来年からは夏の休暇の優先事項にしたいと心から思った事でした。ご奉仕くださった敬愛する兄弟姉妹の皆様に心からありがとうございました。

今までも、今も、これからも

永井敏夫

在欧日本人宣教会

今回は、第36回ヨーロッパ・キリスト者の集い（ルーマニア・クルージュ）以来の参加だった。トルコのイスタンブールで深夜のトランジットを経て、シュトゥットガルト空港に降り立った時は疲労していて心細さもあった。しかし何とか電車に乗り、一路中央駅へ。途中の田園風景をみながら少しずつ自分の心が和んできたのが分かった。中央駅で特急に乗り換え、最後はバスで何とか会場に到着した。まるでオリエンテーリングに参加したゴールした感じがした。（バスに乗る時からは顔なじみの方々）

以下、三つの「も」という視点で私の感想を書いてみたい。

*今までも：今回は阿部哲さんを通してなされた神のわざの数々を生き証人の方々に伺うことができ感謝だった。野口和子さんの書かれた本「この愛に捉えられて」信徒伝道者・阿部哲と霊満クルセードを数年前に読んでいたが、その時に受けたインパクトがまたよみがえってきた。

キリスト者の集いが始まり、今に至るまで続いているのは、彼がヨーロッパ中に蒔いた種が芽を出し成長している一つの証だ。私の想像だが彼には細やかさがあり、いつでも直球のみを投げ続けるピッチャーのような人物だったのだろう。天の御国で阿部さんにインタビューする日が楽しみだ。

*今も：集いも40回という回を重ねているが、40歳といえば立派な成人であり、社会でも家庭での責任と役割を持っている年齢だ。祈りながら、試行錯誤しながら実行委員会のみなさん（また開催教会のみなさん）がなしてきたこと



は、確実に主の元に届いているはずだ。互いに集まり主を礼拝し、互いに出会うこと、交わることを喜び（また楽しみ、励ましの機会）とする人々の集まりであることは、「今も」変わっていない。

*これからも：アジア・オセアニア地域では今年の11月下旬に香港で二泊三日で集まりが企画されている。名称は、「アジア・オセアニア日本語教会宣教会議」という少し堅い感じの名前だが、神のみことばを聴き、互いに交わり、祈り、分かち合う機会であるのはヨーロッパ・キリスト者の集いと同じだ。アメリカでも東海岸、西海岸、中西部など地域ごとに集まりが計画され実行されている。今後、大陸を超えたキリスト者たちの交わりの機会があれば素晴らしいだろう。これからも、世界のさまざまな場所に住んでいるキリスト者同士が繋がり、イエスキリストの福音を携えて地域の人々に伝えていく動きが継続しますようにと私は祈る。

「神のなされることは、すべて時にかなって美しい。」（伝道者の書 3:11a）

このみことばにあるように、神のなされることは「すべて」時にかなって美しい。神はいつも、最善のことをベストのタイミングでしておられる。今までも、今も、そしてこれからも。40回続いてきたヨーロッパ・キリスト者の集いに脈々と流れているキリストの愛は決して枯れることはない。

☆在欧日本人宣教会からのお知らせ

*在欧日本人宣教会の機関紙をご利用ください。（PDF、紙媒体）また奮ってご寄稿ください。

*「見つけた子育ての喜び」（母親向け）、「イエスキリストの侍」（男性向け）を用いての集まりがヨーロッパでさらに広がっていきますように。

*ヨーロッパ宣教祈禱会でみなさんの教会、集いを覚えて祈っていきます。これからも。

二匹の猫の会話 佐々木久幸、千鶴

カールスルーエ聖書の学び会

集いが終わって数日後、我が家にいる二匹の猫（ジョンとブラッキー）がこんな会話をしていました。

ジョン: こないだうちのパパさんとママさんが「キリスト者の集い」に参加してきたよね。なんか、ニコニコしてない？

ブラッキー: うん、いつもよりもエサも多いような気がする。

ジョン: なにがあったんだらうね。知ってる？

ブラッキー: こないだ話してたのを聞いたけど、なんでも「キリストの愛」を多くの人たちと味わってきたらしいよ。

ジョン: なにそれ？どんな味？美味しいの？

ブラッキー: 食べるものじゃないみたいだけどイエスという愛の人が心にくれる食べもの（糧）らしいよ。

ジョン: やっぱ食べるものじゃないか？ぼくも食べてみたいなあ〜。

ブラッキー: 「愛」だから食べ物じゃないってば。とにかく素晴らしいものだからひとり占めしないで他の人にも知らせて味わってほしいんだってさ。パパさん

が、第一コリントの13章に書いてあるとか言ってたけど、僕たちには難しすぎてわからないよね。でも何かを感じない？

ジョン: 確かに何かを感じるニャ〜、パパさんとママさんがイエスの愛っていうのに出会ってから僕たちも心地よくなったニャ〜。なんだかまたお腹すいてきたからおねだりしてくるニャ〜。食べたらまたおねんねニャ〜。



この集いのため、長期にわたり企画運営に労して下さったお一人お一人に心からお礼申し上げます。おかげ様で言葉では言い表わせない程の感動の4日間でした。

イエス様の愛に繋がる兄弟姉妹との心のふれあい、分科会、各メッセージを通して神さまが語っておられる言葉に触れる時、聖霊に満たされて心が揺さぶられ、神の愛の御手の中で生かされている喜びを持って確信しつつ、感謝で胸がいっぱいになりました。

また、欧州各地から、そしてはるばる日本から来られた神の家族との新しい出会いや再会を与えて下さった主の慈しみと恵みを心から感謝いたします。主イエス・キリストの御名がほめたたえられますように！！



主の証人として生きる

川上寧

Japanese Christ's Disciples (ブリュッセル)

今年も、ヨーロッパ・キリスト者の集いに参加することができ感謝しています。

今年は特に、第40回という節目の年だからでしょうか、とても内容濃い4日間であったと感じています。聖書において「40」は完全を表す数です。神の時が満ちる時です。時満ちてヨーロッパ・キリスト者の集いに集められた私たちに、神さまは何を用意してくださっているのでしょうか。それを受け取るためのヒントも、また集いの中でたくさん得ることができました。

開会礼拝説教の中で、清水勝俊先生はヨシュア記を通して語られました。それは、イスラエルの民が「約束の地」に入る時のことです。神さまは彼らに約束の地を用意されましたが、彼らは何もせずにそれ得ることを求められたわけではありません。神が求められたのは、神の約束に信頼し、神に完全に服従し、神の約束を勝ち取るための一歩を踏み出すことでした。

約束の地を得ようとするイスラエルの民の前に大きく立ち上がったのは、まずはヨルダン川であり、そしてその地に住む異教の民でしたが、あなたがたはヨルダン川を渡り、異教の民を打ち破ることができるという主の言葉を信じ一歩踏み出して行った時、彼らは救いの御業を見



ることができたのです。

では自分にとってのヨルダン川は何だろうかと考えた時に、私にとっての越えるべきヨルダン川は「不信仰な自分自身」との答えに導かれました。そして、それを越えるための信仰の一歩についても、集いの別の講演でヒントを得ることができました。

野口和子姉の特別講演で紹介された、安部哲兄という信徒伝道者の生き方です。彼は「証しをすることは隣人を愛することになる」や「証しのために生かされている」等と語る程に、信仰の証しを語るのを大切にされた人です。

その理由は「小さい証しから小さな信仰が生まれ、その小さな信仰から、また新しい証しが生まれる」からだということです。日常生活の出来事の中に働く神の御業に気がつく時、それが証しになり、その証しを語ることにより信仰が成長するというお話に励まされました。主の証し人として生きる信仰の一歩を日々踏み出して行くことができますように、主よ、信仰の目を日々開いてください。

最後に、集い三日目の深夜に私が原因不明の腹痛に悩まされた際に、主の証し人である多くの方が助けてくださり、祈ってくださったことを心より感謝いたします。今は完治いたしました。



これからの恵みへと

蜷川いづみ

つつじヶ丘キリスト教会(JECA)

オランダ、パリに続いてこの記念すべき第40回修養会に参加出来ましたことを心より感謝しています。参加の思いが与えられたのは5月4日、日本の魂のために60年の長きに渡り、仕えてくださったバニーマーシュ先生の記念会で賛美をさせて頂いた時でした！



夏にはある依頼された演奏のことがずっと心にあり、そちらへ気持ちが集中していたのですが、タンゲナ由香里姉より、40年前にヨーロッパの日本人キリスト者の集い、教会を証ししながら励まし、多くの労を取って育ててくださった安部哲兄の講演会があることも丁度、お聞きしました。

1982年夏にパリ日本人キリスト者の集い(現パリ日本語キリスト教会)で受洗し、同年12月帰国前に持たれたクリスマス集会の時、安部兄より、今より日本へ遣わす！と拍手を受けた私は、やはり参加すべきでしょ！今、行かないとの思いに満たして頂き、受け付け締め切りぎりぎりのタイミングで道が開かれました。本当に参加して多くの恵みを頂きました。

そして以前よりお交わりのある皆さんとの懐かしい再会、新しい出逢いも用意されていて、小さき者もあの場に置いてくださったことを心より感謝しました！ここで終わりではなく、ここでの出逢いが、またこれからの恵みへと繋がっていくことを信じています。また皆さんとの再会の時が与えられますことを楽しみにしています。

Also ich fand tsudoï sehr cool, den Ort aber auch die Teens Gruppe, also wie da der Gottesdienst gemacht wurde. Die Minigruppen waren auch praktisch, dass nochmal jeder seine Meinung zu dem Thema sagen konnte und man sich gegenseitig austauschen konnte. Außerdem fand ich auch sehr gut, dass wir viel Auszeit bekommen haben und wir auch etwas draußen machen konnten. Ich finde es insgesamt also sehr toll und ich freue mich auf das nächste Mal.



グラッツィアディオ キアラ



今回集いに参加したのは2回目でした。去年は7人くらいだったのに今年も20人も参加していてビックリしました。今年も信仰について深く喋れる、そして将来一緒に住む約束をした良い友達に出会えて本当に神様に感謝しています♪この友人関係が長く続くように日々お祈りしています。また今回の集いのテーマ:「キリストを宣べ伝えよ」は簡単なようで難しいことなんだと改めて思いました。

この先キリストを宣べ伝えることで迫害に遭うかもしれない、傷つくかもしれない、そんな時も神様がそばに居てくれると思うとすごく安心します。私はこれから沢山の人にキリストを宣べ伝えたいです、そして一人でも多くの方が救われることを祈っています。

呉佳恵

今回は僕にとって初めての集いであり、初めて沢山の日本人と関わることに、ティーンズのリーダー役として参加することができた。

中高生の悩みと質問を聞き、その時期の自分を思い出された。自分の理解範囲で応答したり証しを伝えたりできたことは、その頃からあまり変わっていないと思い込んでる僕を、「違よ。ちゃんと成長したよ。」と反論されました。

更に、集いは信頼し合える貴重な環境だと特に証の夜に気付いた。中高生達が体験したことを正面切って話せることに、神様が聖霊の働きを通して、一人一人の人生の面倒を見てくださったり再検討するのを見て、とても励まされた。

バイナー・ナタナエル



今回の集いに参加できた事にとても感謝しています。ティーンズの方での奉仕もさせていただき、色々な励ましを受けました。今回は二十人ぐらいの若者たちと色々な分かち合いができて嬉しかったです。若い時から神様の事をもっと知りたいと願う姿、難しい問題があるとしても、答えを興味深く知りたいと思う姿、肩を組みながら皆んなで賛美する姿、励まされました。私にとっての一つのハイライトは横山ご夫妻が賛美をリードしてくださった時でした。二百人以上の兄弟姉妹と主を共に賛美できる事は大きな喜びでした。皆さんがそれぞれ辛いところを歩んでいるにもかかわらず、その苦難の中でさえも主は誉めるべきかただなと思いました。会場が主の喜びで満ち溢れていました。最後の夜の分かち合いの時にも一人のティーンがその賛美の力の事も語ってくれて、本当に賛美の大切さを改めて思わされました。集いが終わってもティーンズとの交わり、バイスタがオンラインでできている事も感謝です。これからの若い世代がどのように神様に用いられるのかとても楽しみにしています。全ての栄光を主にお返しして、期待します!

トムセン・ヨハナ光



私は『Schwäbsch Gmünd』で開催された第40回キリスト者の集いのティーンプログラムに参加しました。集いでの時間はとても素晴らしかったです。いろいろなことをしたのでティーンプログラムの様子をみなさんに紹介します。朝、2人の友人と一緒に起きて朝食を食べて、最初のミーティングに行きました。ミーティングでは聖書のお話しがあってその後、割り当てられたスモールグループに入り、聖書の話について自分の意見をみんなと共有しました。その後は自由時間。友達と遊んだり、バスケットやサッカーなどをしました。コートで偶然出会った人たちとも2度ほどプレーしました。とても楽しかったです。夜は部屋に残って他のソーシャルゲームをすることもできました。ゲームを通して、楽しみながら新しい人と知り合うことができます。個人的には人狼ゲームが一番面白かったです。友達とずっと爆笑していました。これがティーンプログラムの一日の様子です。

もちろん、神様との関係を深めることもできました。最終日には、全員が証しをすることができ、感情的になる人もいました。ほんの数日前に会った人たちに対して、神様から勇気を得て、全員が輪になって自分の話をすることができました。誰も人を裁いたりしません。私たちは素直に共感し、理解し合うことができました。これもまた、集いのハイライトでした。集いのティーンプログラムでは誰かが一人取り残されたりひとりぼっちになったりすることはありません。みんなが参加し、意見を言うことができました。それが集いのみりゆくだと思います。参加させてもらったことにとても感謝しています。

リンダーマン・トーマス亮

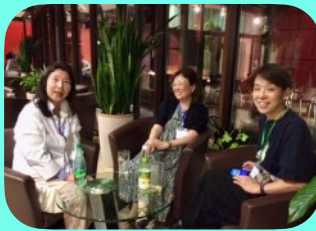
イエス様の犠牲の尊さ、愛、重さ

富永幹恵

パリ・プロテスタント日本語教会

40周年という記念の年、実行委員及びボランティアの兄姉のご労ゆえに、今年も集いが持たれたたくさんの恵みをいただけましたこと感謝致します。

今回のテーマ「キリストを宣べ伝えよ」はもちろんよく耳にする言葉ですが、集会の間とても新鮮に響き、新たな気づきのように迫ってきました。じわじわといろいろな人の顔が浮かんできました。家族、友人、知人・・・



日本で長年働いてくださった宣教師の先生方、たくさんのご苦労があったことと思います。にもかかわらずその明るさに身が引き締まります。メッセージ、宣教されてきたお証に感謝します。

マイヤー先生の「福音の価値」を天秤の例をひきながら、何をのせてもびくともしないとのメッセージに、イエス様の犠牲の尊さ、愛、そしてその重さの深さにあらためて感動しました。スモールグループでも心にかけている人の名をあげ、互いに祈りあう約束をする事ができました。今いるこの場所で新たな思いで歩みたいと思います。

危険なオデッサの地で、撤退されずに福音のため主のために闘い続けておられる船越先生ご夫妻のためにお祈りします。

Ermutigenden Eindrücken

Heidi Matsubayashi

JEG Schweiz

Eigentlich habe ich nicht damit gerechnet, dass wir an der diesjährigen Konferenz teilnehmen würden, waren doch die Sommermonate schon recht verplant mit diversen Anlässen, Betreuen der Enkelkinder, Gästen von nah und fern u.a.m. Dann teilte mir Koji jedoch mit, dass er uns bereits angemeldet habe, da er für verschiedene Aufgaben angefragt worden war.

Nun legte ich meine Bedenken dem Herrn hin und wurde anschliessend gleich mehrmals überrascht. Erstens sorgte ich mich wegen der langen Fahrt mit unserem kleinen Auto. Aber es dauerte nicht lange, da bot uns eine liebe Freundin an, mit ihr nach Schwäbisch Gmünd zu fahren.

Zweitens war die Erinnerung an die schlecht verständlichen Übersetzungen der jeweiligen Vorträge infolge technischer Probleme nicht gerade verlockend für die Teilnehmer der deutschsprachigen Gruppe. Wir waren deshalb unendlich dankbar für die gute Qualität der neu angeschafften Geräte, die bestens funktionierten, was sicher auch für diejenigen Geschwister, die sich für den Übersetzungsdienst zur Verfügung stellten, eine Erleichterung war.

Zudem freute es mich auch, als eine jüngere Frau zu unserer Kleingruppe hinzukam, da ich vorher die einzige weibliche Person war. Mit diesen positiven Erfahrungen und vielen andern ermutigenden Eindrücken kehrte ich gestärkt und voller Dank von der diesjährigen Konferenz zurück. Dem Herrn sei Lob und Dank dafür!



靈的にも強められた集い

松林ハイディ

スイス日本語福音キリスト教会

実を言うと、夏は既にいろいろなイベントや孫の世話、近隣や遠方からの来客などでかなり忙しくなりそうだったので、「キリスト者の集い」への参加は難しいと思っていました。しかし、夫が「いろいろな仕事を頼まれているし、すでに参加申し込みはしてある」と教えてくれました。

私は自分の心配事を主に打ち明けましたが、その後、何度も驚くべきことがおきました。まず、私たちの小さな車での長距離ドライブが心配でした。

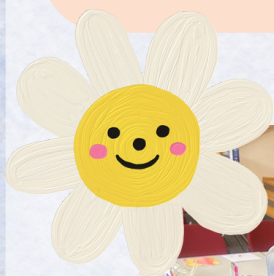
しかし、サンクトガーレンに住む親しい友人が、なんと彼女の車で一緒にシュヴェービッシュ・グミュントまで連れて行ってくれると申し出てくれたのです。

第二に、昨年は技術的な問題で、それぞれの講演の通訳がうまく理解できなかったという記憶は、ドイツ語グループの参加者にとって、再度の参加は決して魅力的なものではなかったと思います。そのため、私たちは新しく手に入れた通訳機器の品質が良く、完璧に機能したことに限りなく感謝しました。これは、翻訳サービスのために身を粉にして働いてくれた兄弟姉妹にとっても救いであったことは間違いないでしょう。

さらに、今までドイツ語グループで女性の参加者は私ひとりだったので、今回、若い女性が小グループに加わってくれたことも嬉しかったです。このような前向きな経験や、その他、多くの励ましに満ちた印象によって、私は今年の集いから靈的にも強められ、感謝の気持ちでいっぱいになって帰ってきました。主に賛美と感謝を捧げます！

Hallo hier schreibt 愛増谷 (Mana Masutani) ich war in der Teens Gruppe, und es hat richtig spaß gemacht zuerst als wir da alle angekommen sind haben wir wieder alle nach einer langen Zeit wieder gesehen und hallo und uns halt wieder einbisschen vorgestellt und uns wieder ein bisschen eingewöhnt weil man hat sich ja 1Jahr lang nicht gesehen und das erste Lied das wir am Anfang gesungen hatten da habe ich gensehaut bekommen mit allen zu singen es klang einfach zu schön. Die Geschichten von den Pastoren oder den Leitern von den Teens zu hören waren sehr spannend ich habe auch sehr viel neues erfahren. Als erstes wollte ich auch nicht akashi oder so vorlesen weil ich nicht ganz wusste was ich schreiben soll oder ob es gut ist aber ich habe es am ende doch vorgelesen weil sich immer mehr Leute getraut haben und von allen die Geschichte von sich und Gott oder Jesus zu hören finde ich super spannend das hat mich richtig interessiert. Ich habe auch mindestens bei den 2 Tag mich wieder dran gewöhnt so zu sagen,also alle waren auch nicht mehr so angespannt,weil wir uns dann besser kannten und auch mehr Zeit mit einander verbracht haben.Das mit dem akashi noch mal als erstes wusste ich garnicht was ich schreiben soll aber dann wenn nicht alle in einem Raum sind sondern allein für sich ist und es dabei noch ruhig ist dann hat man sehr viel Zeit darüber nachzudenken wie man eigentlich zu Gott gekommen ist oder steht ich habe zumbeispiel 2 Seiten voll geschrieben aber auf deutsch und als ich meine Geschichte allen erzählt habe habe ich zumindest versucht es auf japanisch zu erklären und dann habe ich auch was anderes erklärt als was ich geschrieben hatte aber ich finde es war besser so man kann sich halt umentscheiden und alle respektieren das oder wenn man doch nicht erzählen will respektieren es auch alle.Und auch wenn wir uns nur 1mal im Jahr sehen also dieses Jahr(2023)gibt es noch eine Veranstaltung für die Teens im Oktober und im Dezember aber das ist ja nicht immer so und genau weil wir uns nicht jeden Tag sehen ist es was besonderes. Wir alle haben auch neue Freunde gefunden und mehr erfahren und gelernt wir haben von uns selbst Geschichten erzählt und vorgestellt und nachts spiele gespielt wir sind morgens um 6:00uhr schwimmen gegangen und haben malen Challenges gemacht wir haben über das geredet was wir denken oder uns sorgen machen und zusammen gebetet wir haben Sport Tag gemacht und mit allen gegessen und uns unterhalten,was ich damit sagen will ist dass wenn ich von tsudoj immer nach Hause fahren muss, vermisse ich euch alle schon, es macht jedes wirklich JEDES JAHR richtig spaß mit euch und ich hoffe das sich das auch nicht ändern wird 🌟😊🥰🥳🌟 Ich freue mich euch nächstes Mal wieder zu sehen❤️🙏🥰🙏

Liebe grüße Mana 愛増谷



グルンケマイヤー・マークと申します。一昨年の集いは初めて参加したのですが、ユースの方に参加しました。今年は初めてティーンズのプログラムで奉仕させていただきました。ティーンズのプログラムの説教や証によって神様との個人的な関係の大切さと楽しさをさらに学びました。そう思ったティーンズもいて感謝です。サマリア人の女の話もあったのですが、イエス様は人間に非常に嫌われていた人とさえ、個人的な関係を持ちたいということも学びました。僕にはだめだと思ってしまった人にも、神の視点から見て愛せるようになります。ヨハネの福音書のナタナエルについても説教がありました。ですが、ナタナエルはイエス様が神様の子だと信じて発言した後、イエス様がこう答えました。『いちじくの木の下のあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたは見ることになる。』ナタナエルの信仰生活はここからスタートしましたが、この箇所を通して自分の信仰生活のこれから、またティーンズの信仰生活のこれからをもっと楽しみにするようになりました。

グルンケマイヤー・マーク



私がよく行く教会には同年代がほぼ居らず、自分の同年代のクリスチャンと交われるのはたいへん貴重な体験でした。全員とても良い人で、最高の四日間でした！

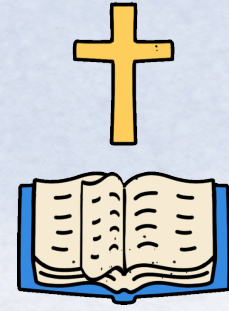
リオ





TSUDOI TEENS

感想文 2023年



今回の集いに参加でき、皆さんと祈りと御言葉と共に四日間過ごせたことを感謝します。自分自身たくさんの方から刺激を受けました。私と同じ年代の人達と聖書について話し合うというのは、今まで自分から積極的に話すという事をあまりしてこなかったことでした。私は集いの中でたくさんの方が賛美、踊りまたメッセージを通して神様のことを「伝える」姿を見ることができました。また今回の集いは私にとって、もつと神様のことについて深く知りたいとおもう機会となりました。そして今毎週月曜日のBIBLE STUDYに参加できていることをほんとに感謝しています。

川副満名



今回の集いは二回目で、前回はCSでした。CSでは遊びがメインでしたが、TEENSでは話を聞いてからスモールグループで考えをシェアできて、うれしかったです。めっちゃ仲良くなった友達が3~5人できてたのしかったです。将来一緒に住む約束もしました。それが実現するように日々お祈りします。今回の話で、一番印象に残ったのは聖書が分厚いのは神様の愛がそれぐらいあるからということでした!

根本 百合野

一人一人が伝道者として

馬場晶子

ロンドンJCF

4年ぶりに参加した集い会場では、懐かしい兄姉に次々とお会いし、抱き合って再会を喜びあいました。20年以上家族の夏の恒例行事であった集い参加も、今では夫婦二人での寂しい参加となりましたが、集いが新しい形で継続されていることはとても嬉しく、主に感謝します。

これまでは集い=ホリデーという捉え方をしていました。ツアーなどのプログラムがなくなり興味を失っていましたが、今回参加して考えが一変しました。毎年馴染みの会場で、目的地まで迷うこともなく行けて、み言葉に集中できるのも素晴らしいことです。

クリスチャンにとって集いは大切な魂の回復の場所、リトリートです。日常から離れた環境に身を置き、神様と親密な交わりを持ち、主の御前に静まり、主にある兄弟姉妹との交わりを持つのが集いの目的ではないでしょうか。今回時間に追われることなく、午後もゆっくりと自由に過ごすことができ、霊肉共にリフレッシュすることができました。

また、「キリストを宣べ伝えよ」とのテーマで様々な角度から先生方がメッセージを語られ、一人一人が

伝道者として宣教の使命を委ねられているとの思いを新たにすることができました。

私は子供たちが巣立ってから主にある夫婦関係について考えていました。分科会の中に「夫婦関係」があることを知り、迷うことなく参加しました。同様の思いを持つ方たちが集まり、矢吹先生ご夫妻をファシリテーターとして2日間互いの体験や、悩みをシェアしながらじっくりと話し合うことができました。

そして、結婚生活を通してどのようにすれば神様の性質を反映させていくことができるのか考えました。自分が幸せになることよりも、相手にどうやったら仕えられるか、夫に仕えていない自分を悔い改めました。互いに仕えあうことこそが結婚生活の鍵ではないかと思いました。

互いに仕えあう。肉に属する者にとっては簡単なことではありませんが、聖霊様の働きによるのみ可能となるのではないのでしょうか。矢吹先生、村岡先生ご夫妻を始め多くのお方たちの姿を通して、夫婦共に主を見上げて、仲良く成長していきたいと思われた集いでした。第一ヨハネ 4:12

ロンドンJCFは、来年創設50周年を迎えます。神様の憐みによって、新牧師夫妻の招聘が可能となり新しい時代に突入します。牧師招聘の準備に追われる中、今回は多くのJCF家族を誘って参加したいと考えています。



金子進

オスローJCF

この夏に開かれたヨーロッパ・キリスト者の集いに参加できたことは感謝でした。信仰にある古い友人たちからの誘いもあり数年ぶりに参加しました。40回の節目にあたり、テーマは「キリストを宣べ伝えよ」でした。信仰の勇者として慕われている安部哲兄弟の軌跡をもとに、「時が良くても悪くても」伝道の大切さを再認識させられました。



私自身も「あべでん」という安部兄弟の半世紀なる本の著者として、参加を強く促されていました。しかし、個人的には3つの病を抱え大きな決断を必要としていました。癌の数値は穏やかでしたが、最近のCT検査で鼠経ヘルニアが発見され治療が必要と診断されていました。ドイツで開かれる修養会への出発1週間前には血尿が発覚し、主治医と相談しました。医師は「ドイツなら医学は最先端ですよ。何かあっても大丈夫でしょう。行ってらっしゃい。」と軽く言われて出かけました。

信仰歴は62年になりますが、脳裏には多少の不安を抱えながらも出発しました。朝4時に起き、修養会場に着いたのは夕方4時でした。就寝時には「ここまで守られています」と感謝の祈り、朝起きれば「今日もお守りください」と祈り、与えられている奉仕も日々順調でした。

修養会の中頃にある姉妹と昼食時にいろいろと楽しく話し合いながら食事していた時、私の左後方からそ〜と何か差し出されました。折り紙のような袋の中に飴玉が3つと聖句入りの葉が入っていました。これは何かの目的で献金を集めるために買うもののだと思い、右手で素早く内ポケットから財布を取り出しました。

横にいた少年（10歳位？）は笑顔で無言でした。とっさに状況判断した前席の姉妹が説明してくれました。これは修養会に参加している子供たちの手作りで、まだ知らない人に「小さな愛」を無料で



配っているのです、と。

私は驚いて少年を見ると満面の笑顔で受け取ってください、と差し出していました。勿論、喜んで受け取りました。前席の姉妹に記念写真を撮ってもら

い、受け取った葉を見ました。

聖句が書いてありました。「あなたは うしろから 前からわたしをかこみ わたしの上に み手をおかれます。」 しへん・一三九・五

私は胸にじ〜んと迫り来るものを感じました。振り返りましたが少年の姿を見つけることは出来ませんでした。食事を済ませてホテルの部屋に戻り祈りました。私は守られている。心配したが修養会に参加



している。此処まで何とか小さな奉仕も守られている。あの御言葉のように神様により守られている、と心から感謝しました。

撮っていただいた写真を見ると天使のような笑顔の少年が写っていた。あの時

いらい少年と会場で会っていない。天使・健人君に「小さな愛」のお礼が言いたかった。

うれしい感謝な思い出が残る夏の修養会でした。来年も参加できるかな〜。



もしかすると、このような時のため

富永重厚

パリ・プロテスタント日本語教会

ヨーロッパ・キリスト者の集いは1984年にドイツのブッパータルで行われてから今年が40回目の記念の集いとなりました。

マタイ28：19から「キリストを宣べ伝えよ」とのテーマが掲げられ、欧州各地の日本語教会の牧師・宣教師が聖書からのみ言葉を取り次がれました。

特に今年はロシアによるウクライナ戦争が続く中、オデッサの地で宣教と支援活動を続けておられる船越先生の特別講演と、野口和子姉による言わばこの集いの生みの親とも言うべき安部哲兄の信仰と伝道についての特別講演が企画されていました。

ここでは船越先生の特別講演から教えられたことを分かち合います。

1、何と困難な決断であったか。



船越先生ご夫妻は加古川バプテスト教会から1998年にオデッサに派遣され、教会を開拓してウクライナの人たちへの宣教の働きを長く続けて来られた。そして、2022年2月24

日、誰も予想しなかったロシアによる激しい爆撃が始まった。ウクライナ戦争の勃発である。

先生ご夫妻は日本大使館や米国の支援団体からの避難勧告にもかかわらず現地にとどまる決断をされた。この時の決断はどれ程困難な決断であったことでしょうか。

大使館からの避難勧告があったにもかかわらず、という事は、もし船越先生がロシアに身柄を拘束されたり、ロシアの攻撃で日本人牧師が宣教する教会員に死者が出た場合、世の中からの批判はいかばかりか。船越先生の責任だけでなく派遣教会やひいては日本の教会が非難されることは容易に想像できます。

どうしてこの様な決断ができたのでしょうか。誰も予測していなかったロシアからの突然の侵攻が始まった時、船越先生ご夫妻はすでに25年近くオデッサの地で地道に宣教の働きを続けてこれ次第に教会員も増え、地元の方々とも信頼関係が築かれてきていたのではないのでしょうか。

どんな非難を自分が受けるとしても、自分を信頼してくれる「信徒をおいて避難することは全く考えなかった」と船越先生は講演会の中で言っておられました。この極めて困難な決断を下すに際して、ご夫妻によるどれ程の神さまへの真剣な祈りと問いかけがあつたことでしょうか。その祈りの結果の決断であったと思います。

2、上からの知恵

ロシアの爆撃が続く中、比較的守られているオデッサにはウクライナ西部から多くのウクライナ人の避難民が増えていきます。船越先生を中心とするオデッサの教会は、被災地支援のためさまざまな「HOPE」プロジェクトを立ち上げました。まさに「希望HOPE」を与えるプロジェクトです。

例えば兵士の救急具や防御具をトラクトと共に送る「HOPEソルジャーズ」プロジェクト、多くの人々が避難しているニコライエフに食糧支援物資を届け一日子供キャンプを設ける「HOPEニコライエフ」プロジェクト、与えられた発電機を使っての教会スタッフによる子供たちのための「HOPEスクール」や「HOPEウインター」プロジェクト、そして「HOPEソルジャープロジェクト」第三ステージとして戦争が終わった後の帰還兵の心のケアの問題等々。

これらはすべて船越先生ご夫妻やオデッサの教会の祈りに応えて、神さまが上よりの知恵を与えて下さったものに違いありません。

3、この時のための主のご計画

船越先生ご夫妻は実に戦争が始まる前に24年間この地で宣教の働きをしてこられた。しかし、ウクライナの人たちはこの働きをどちらかと言えばセクト的存在と見ていたようです。24年かかって崩すことの難しかった大きな壁が、地道な「HOPE」プロジェクトが進むにつれ次第に取り払われて行きました。不思議な神さまのみ業です。

もしかすると、この時のために神さまは24年前にオデッサの地に船越先生ご夫妻を遣わされたのではないのでしょうか。エステル記4章を思い起こします。船越先生は「この状況下でしかできない教会の働きがある」と言われました。私はこの言葉を聞いた時、いつも頭から離れなかった「何故神はウクライナ戦争を許しておられるのか」という問いを止めました。

ここに、いつ終わるか全く分からないウクライナ戦争の中で、主は確かに働いておられるとの確信を持ち、主を全面的に信頼し、常に未来に目を向けている人間の明るさと強さがあります。一日も早くロシアが撤退し、ウクライナの地に平和が回復することをお祈りします。

今年も素晴らしい集いを準備・実行して下さった実行委員の一人一人に心から感謝致します。



意味があるのよ

川上真咲

Japanese Christ's Disciples

今年もキリスト者の集いに参加できたことを感謝いたします。今年は色々な経験をさせていただき、交わりも含めさらに豊かな4日間を過ごせたと思っています。

そして、今年は思わぬハプニングにも見舞われました。最後の夜にすべてのお手伝いを終え、後は明日の礼拝に備えて寝るだけ！と部屋に戻ったところに原因不明の腹痛で唸っている夫の姿が...

さてどうしたものかと思っている中、ティーンズからご年配の方々まで、本当に多くの方々に助けられました。何もこんな時にこんな所で体調を崩さなくとも...と思わず口から出て来た愛のない文句に「意味があるのよ」と優しく包み込んでくださった励ましと慰めの言葉も本当に心に沁みまし

た。本当にその通りです。

真夜中、日付も変わる時間帯に多くの方が心配し助けの手を伸べ祈ってくださったこと、主にある家族の愛を本当に体験させていただいたこと、大きな意味のある出来事でした。神様と皆様に心より感謝を申し上げ、今度は私たちが手を差し伸べさせていただきたいと思わせる集いとなりました。



さて夫の体調はすっかり回復いたしました。お医者様の診立てでは疲れがたまっていた身体にボリュームある食事が急な炎症を起こしたのではないかとのこと。どんなに美味しくても食べ過ぎ注意!です。を全面的に信頼し、常に未来に目を向けている人間の明るさ

と強さがあります。一日も早くロシアが撤退し、ウクライナの地に平和が回復することをお祈りします。

